【熊本県賞】

　　　　　水との関わり　　　　　熊本県　阿蘇市立阿蘇中学校　二年　中山　千菜都

　ホワッと淡く光る小さい何かは幼い私の目の前を無数に飛びかっていた。

　小さい頃、決まって夏になると祖母と兄と共にホタルを見に行ったものである。運が良ければ家の裏でも見られる年もあったのだが、今ではホタルが見られる場所もホタルも少なくなってきている。家の裏で最後にホタルを見たのも十年近く前になる。水辺にはホタルの光が反射し、黄色く輝やいて見える。私の前を飛んだホタルたちを目で追うと、ホタルたちの足跡のように黄色い細い線だけが残って見える。私はその光景をもう一度見たいと感じるのであった。いろんな条件があるが、ホタルは水がきれいな場所に集まるのだそうだ。

　私は阿蘇市に住んでいる。阿蘇には沢山の水が沸いている場所がある。私が住んでいる近くでも、熊本地震の影響で水が湧かなくなったり、水の量が減ったりしたところもあるが、今も水が流れ続けている所がある。また、私の家では産山に行く道の坂の途中にある手野の名水という所へ月に一、二度軽トラックにペットボトルをつんで、水を汲みに行っている。汲んだ水は、米を炊くときやポットの水などの生活用水に使っている。この水で米を炊くとおいしく炊けるのだ。ここの水は焼酎の水割に向いているらしい。

　水が今でも湧き続けている場所がる一方、かれてしまった所もある。私の身近な場所でも二つある。一つ目は、家の隣の竹林にある穴だ。祖母は昭和四十八年に来たのだがそのその時はまだ、雨が降った翌日や梅雨明けには水が湧いて出ていたらしい。その穴には、水神さんがまつられており、今も月の一日と十五日に塩をまいているそうだ。

　私の出身校は阿蘇小学校なのだが、入学する前にの年に乙姫小学校と碧水小学校という小学校が合併してできた。合併する前の碧水小学校は、近くにの踊山神社にある水が湧いている所の水が碧くきれいだったことからその名前がつけられた。父が小さい頃は、踊山神社に続く道のまわり一面に水がはっていたらしい。今は水もかれ、杉林が広がっているだけとなった。一面に水があったところなど想像がつかない。ずっと昔から、人々は湧き水を大切にしてきた。神社を建て、まわりを森で囲んだ。地域の人総出で掃除をしてきた。そのような歴史が今、止まろうとしていることが悲しい。

　私にとっての身近な水が枯れてしまった所は、昭和五十年以後に行われた基盤整備やボーリングなどのせいで水が湧かなくなったと言われている。阿蘇は水が豊かだと言われているが、水が枯れてしまった所も多くあるのだ。水のおかげであった地域とのつながりなども少なくなってきている。

　豊かに水があるからといって水を無駄にしていいわけではない。水は人と人とのつながりにもなる。水は水害をおこしたりなどとても怖いものではあるが私たちの生活に必要不可欠なものである。私たちはこれからも阿蘇のめぐみである水を大切にし、水と共に生きてゆけるよう努めなければいけないと私は考える。